

理工系大学院留学生の日本語使用に関する一調査

羽吹幸・篠原亜紀

[キーワード] 理工系大学院留学生、日本語使用状況、アンケート調査、グループプロフィール、
オンライン教材の開発

[要旨]

国際交流基金日本語国際センターは、放送大学との共同プロジェクトとして「理工系大学院留学生のための日本語オンライン教材」の開発を進めている。教材を開発するにあたり、理工系大学院留学生が大学生活や日常生活においてどのように日本語を使用しているかを探るため、アンケート調査を行った。また、アンケート調査の結果に基づき、理工系大学院留学生のグループプロフィールを作成した。グループプロフィールから、理工系大学院留学生の日本語使用場面は幅広く、さまざまな場面で日本語の使用が求められていることがわかった。研究生生活で英語を使用している留学生であっても、指導教員や研究室メンバーとの研究以外のコミュニケーションにおいては主に日本語を使用している。日常生活においても人との交流のために日本語の使用が必要とされている。また、手続き等で書類に必要事項を記入するという言語活動が多く見られた。

1. はじめに

現在、国際交流基金日本語国際センターは、放送大学との共同プロジェクトとして「理工系大学院留学生のための日本語オンライン教材」の開発を進めている。近年、文部科学省により留学生30万人計画、グローバル人材育成推進事業、世界展開力強化事業等の大学国際化政策が推進されているが、当プロジェクトは、理工系大学院において英語のみで学位が取得できるコースで研究活動を行う留学生を主な対象として、日本の生活で最低限必要になる入門レベルの日本語を渡日前に学習してもらうためにオンラインで教材を提供しようとするものである。

当教材を開発するにあたり、理工系大学院留学生の大学生活や日常生活における日本語使用状況を把握するべく、アンケート調査を行った。また、アンケート調査の結果に基づき、理工系大学院留学生のグループプロフィールを作成した。本稿では、アンケート調査の結果とグループプロフィールの作成について報告する。

2. アンケート調査について

2.1 調査の概要

理工系大学院留学生の日本語使用状況を調査するにあたって、2013年6月27日から7月21日

の間、WEB上に作成したアンケートフォームに直接アクセスし回答する形式でアンケート調査を実施した。アンケートの対象者は、(1) 理工系大学院に所属する留学生と(2) 留学生のいる理工系大学院研究室に所属する日本人学生で、(1)の留学生用アンケートフォームは英語と日本語の2言語を用意した。主な調査依頼先は、千葉大学、山口大学、早稲田大学、東京大学、名古屋大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、筑波大学など20近くの大学で、最終的に留学生回答201件(うち、日本語回答106件、英語回答95件)、日本人学生回答129件、計330件の回答が得られた。

留学生への質問内容は、(1) 属性、(2) 使用言語、(3) 日本語使用場面、(4) 日本語で困った場面、(5) 来日前の学習歴、(6) 留学生に必要な日本語についての20項目、日本人学生への質問内容は、(1) 属性、(2) 留学生とのコミュニケーションに対する満足度、(3) 使用言語、(4) 留学生の日本語使用場面、(5) 留学生とのコミュニケーションについて感じることにあつての15項目である。

2.2 留学生を対象にした調査

2.2.1 回答者の属性

回答した留学生の専攻・専門は、工学、建築学、医学・薬学、情報学、農学・園芸、環境学、物理学、化学、生物学、獣医学など、多岐にわたる理工系分野から得られた。回答者の所属する課程は、修士100(49.5%)、博士74(36.8%)、その他27(13.4%)で、日本滞在期間と研究室への所属年数は共に「c.1~3年」が最も多かつた(図1、2)。

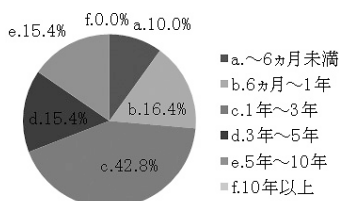


図1：日本滞在期間

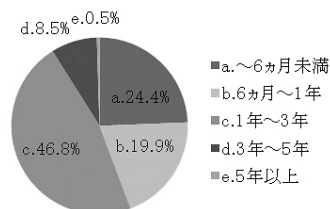


図2：研究室への所属年数(留学生)

回答者の国籍は48ヵ国にわたつたが、中国が79と圧倒的に多く、次いでインドネシア19、ベトナム16、マレーシア8、フランス6が続いた。

2.2.2 回答内容

①使用言語

留学生の使用言語は、指導教員に対しては「c. 英語(または他の言語)も日本語も使う」が39.8%と最も多かつたのに対し、日本人学生に対しては「b. いつも日本語を使う」が55.7%と

理工系大学院留学生の日本語使用に関する一調査

抜きん出て多かった(図3、4)。どのようなときに英語と日本語を使い分けるかを聞いた質問では、指導教員に対してはゼミや指導などの専門的な話をするときは基本的に英語で、日常会話や雑談になると日本語を使うという回答が多かった。日本人学生に対しても同様に、研究のことは英語で、日常会話は日本語でという回答が多かったが、日本人学生が話しかけてくる言語に合わせて英語か日本語かを使い分けるという回答も見られた。

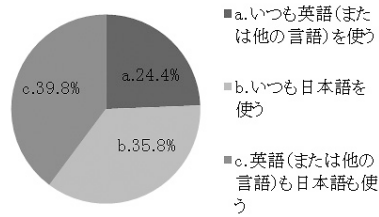


図3：指導教員との使用言語

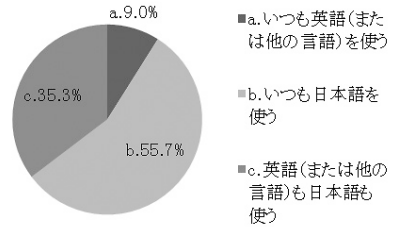


図4：日本人学生との使用言語

②研究活動・大学生活における日本語使用場面

研究活動や大学生活ではどのような場面や場所で日本語を使うかについて選択肢で得た回答は、図5のようになった。校内の売店や食堂で大学のスタッフと接する際は、日本語を「よく使う」が80%前後と非常に高いことが特徴であると共に、専門の研究活動においては日本語を使う頻度が少なくなる(「よく使う」が40%台)が、研究活動で接する先生や学生同士であっても雑談になると日本語の使用が増えることがわかる。

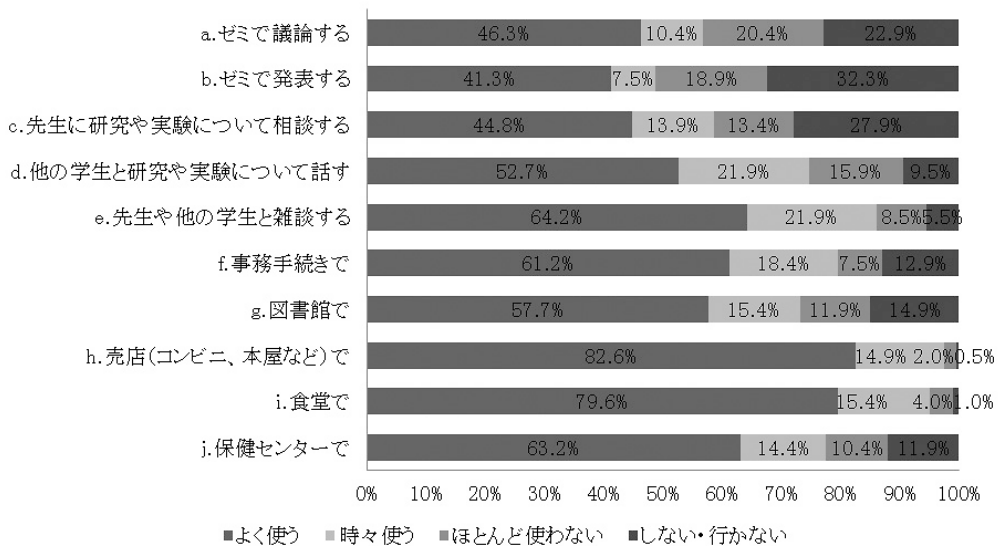


図5：研究活動・大学生活における日本語使用場面(留学生回答)

自由記述で得た回答では、「英語のあまり得意でない研究室メンバーとのやりとり」や「研究室内のメールのやりとり」、「学会の申し込みや発表」、「研究のための情報検索」、「ゼミ合宿、飲み会」、「フィールドワーク、調査」、「実験器具等の注文」などの日本語使用場面が挙げられた。図5の選択肢中、日本語を使う割合が最も少ない「b.ゼミで発表する」場面においても、「英語で発表するとコメントが90%減になるから」日本語を使用するという回答もあった。

③日常生活における日本語使用場面

日常生活では、研究活動・大学生活の場面とくらべて大幅に日本語使用が増える傾向にあることがわかる(図6)。自由記述による回答では、「アルバイト」、「ネットショッピング」、「銀行、郵便局、不動産屋」、「レストラン、ホテル、美容院などの予約」、「スポーツジム」、「教会」、「習い事」、「寮、ホストファミリー」といった日々の生活場面に加えて、「旅行」や「地域の祭り」などの特別なイベントも挙げられた。

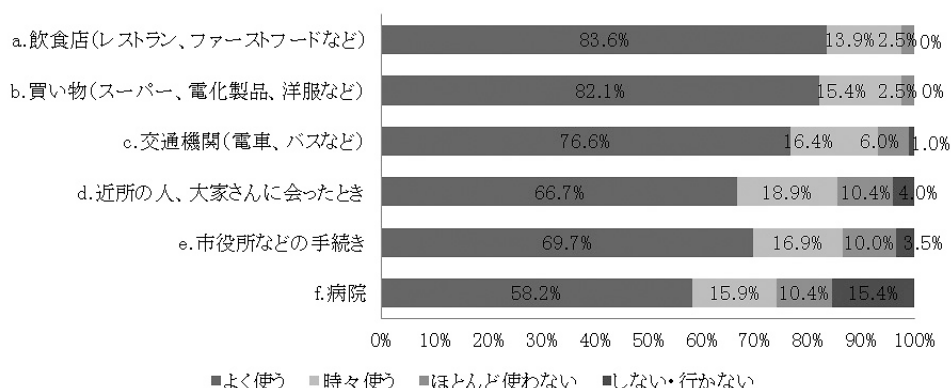


図6：日常生活における日本語使用場面

④日本語ができなくて困った場面

日本へ来てから日本語ができないために困ったことがあるかどうかについては、81.6%が「困ったことがある」と答えており、困ったときに手伝ってもらう人は「a. 研究室の学生」と「b. 日本人の知人や友人」でほぼ半数を占める一方、「f. 誰にも手伝ってもらわない(自分で何とかする)」という回答も5.6%見られた(図7)。自由記述の回答では、所属する研究室やコースで日本語が多く使われる場合、「授業の内容が理解できない」、「先生や研究室のメンバーに自分の考えをうまく説明できない」、「研究室で

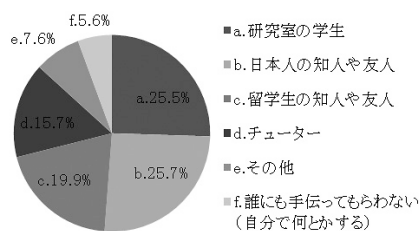


図7：日本語で困ったとき手伝ってもらう人

の雑談時にみんな日本語を使うので困った」といった意見が挙げられた。また、日常生活でも「不動産、光熱費、携帯電話、インターネットの契約」や「市役所の手続き」など、生活上に必要な手続きに加えて、「道に迷った時に案内表示が読めない」、「銀行からの入金確認や郵便局からの連絡など、電話での日本語会話は非常に難しい」、「宗教上食べられない物が入っていることを質問できなかったので食べてしまった」といった問題のあることがわかった。これらの回答とくらべて深刻さは多少減るが、「コンビニでレジ袋や箸が要らないことが伝えられない」といったユニークな回答もあった。

⑤日本に来て最初に覚えた表現・外国人が知っておくと便利な表現

自己紹介の表現や「おはようございます、こんにちは」、「お疲れ様です」など基本的な挨拶、「はい、いいえ」、「すみません」、「ありがとう」、「よろしくお願いします」、「大丈夫です」などの表現が多く挙げられた。また、「知りません、わかりません」、「英語でお願いします」、「もう一度お願いします」といった、日本語ができないことを表明する表現が便利だという意見も多く見られた。「いくらですか?」、「どこですか?」、「何ですか?」などの問いかける表現や、相手の発話に対して「そうですね」、ほめられたときの「そんなことはありません」など、やりとりをするための表現も挙げられた。

⑥入門レベルの外国人が日本語学習で優先すべきこと

数ヵ月後に来日する予定の外国人が短時間の日本語学習で優先すべきことを選択してもらったところ、図8のような結果となった。「a. 日常生活に必要な実用的な日本語を学ぶこと」を挙げた回答が飛び抜けて多く、日本で生活する上では最低限の日本語コミュニケーションが求められていることがわかる。「c. 友人や同年代の人との会話に必要な自然な日本語を学ぶこと」と「d. 先生や年上の人との会話に必要な丁寧な日本語を学ぶこと」

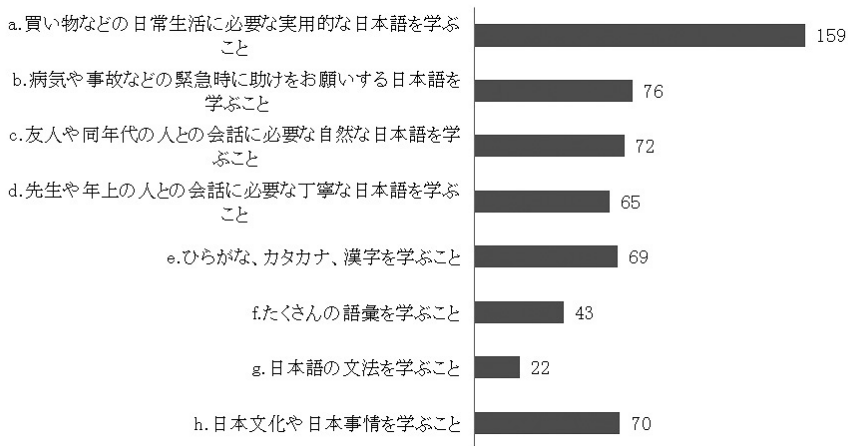


図8：数ヵ月後に来日する予定の入門レベルの外国人が日本語学習で優先すべきこと

生や年上の人との会話に必要な丁寧な日本語」をくらべてみると、cの「自然な日本語」を優先すべきという意見がわずかではあるが多く、これは教員に対する専門的な話題の場面では英語が使えるが、雑談の場面では日本語使用が増えるという回答(図5)を反映している。その他、「e.ひらがな、カタカナ、漢字を学ぶこと」が多いのも、外国人にとって日本語表記の案内表示を読んだり日本語で書類に記入しなければならなかったりする場面が多いことを表している。

日本に来たばかりの留学生にとって、どんな場面でどんな日本語ができるといいと思うか、自由記述で得た質問でも「道や電車の乗り換えについて質問する」、「買い物する」などの実用的な会話の重要性が多く指摘されたが、「(コンビニやスーパーで) 箸やレジ袋が要るかどうか、袋を分けるかどうか、買ったものを温めるかどうか答える」、「(飲食店で) 店内で食べるか持ち帰りにするか答える」といった生活に密着した表現が挙げられたことは興味深い。また、病気や事故の際に助けを求める日本語も必要という回答も多かった。同じく、「英語が話せる人はいませんか?」、「日本語がわかりません」といった表現も挙げられた。これらの実用的な表現以外では、日本人と親しくなったり交流を深めたりするために、基本的な挨拶や自己紹介の表現が大切であるという回答も多く、日本人との誤解やカルチャーショックを減らし礼儀正しく行動するために日本の文化や習慣を知ることが重要という意見も目立って見られた。

2.3 日本人学生を対象にした調査

2.3.1 回答者の属性

回答した日本人学生の専攻・専門は、工学、情報学、化学、エネルギー理工学、数学、獣医学、生物学、環境学など、留学生回答と同様、多岐にわたる。回答者の所属する課程は、学部31(24.0%)、修士88(68.2%)、博士10(7.8%)で、研究室への所属年数は「1年～3年」が62.0%で最も多かった。

研究室に所属する日本人学生と留学生の数について聞いた質問では、日本人学生が「c.11人～20人」「d.20人以上」いる研究室が合わせて68.2%であるのに対して、留学生は「a.1人～5人」が79.8%と、留学生が少数派の研究室が大半である傾向が見られた(図9、10)。

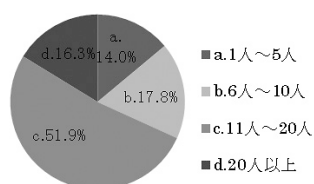


図9：研究室に所属する日本人学生の数

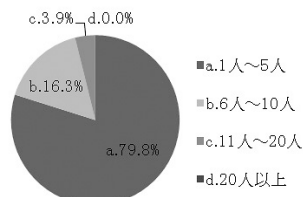


図10：研究室に所属する留学生の数

同じ研究室に所属する留学生の出身国・地域は34にわたり、多い順に中国68、韓国35、インドネシア24、マレーシア20、ベトナム18であった。

2.3.2 回答内容

①使用言語

留学生との使用言語は、「b.いつも日本語を使う」が53.5%、「c.英語（または他の言語）も日本語も使う」が38.8%（図11）で、これは留学生が日本人学生との使用言語について回答した結果ともほぼ一致する。どのようなときに英語と日本語を使い分けるかを聞いた質問では、留学生の回答にも見られたように、研究や実験の際には英語で、雑談や研究室のイベントでは日本語になるという回答が多かったが、留学生の日本語力や日本語を話そうとする姿勢に合わせるという回答も多く見られた。

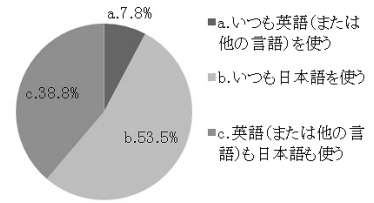


図11：留学生との使用言語

②留学生と話す話題

実務的な「a.研究や実験のこと」、「b.研究室の事務的な連絡」が最も多いが、「e.日々の生活で起きたこと」や「g.プライベートのこと」といった私的な内容も多く話されている（図12）。

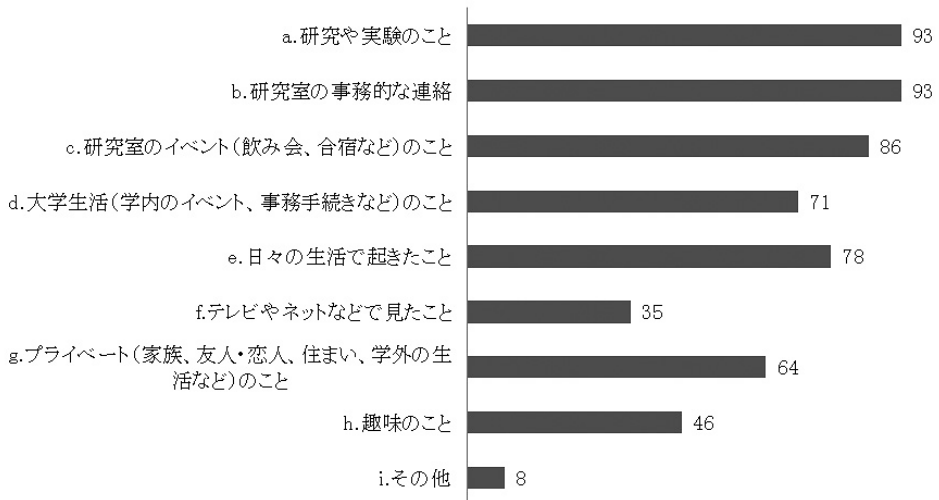


図12：留学生との話題

自由記述で得た回答には、留学生の出身国の文化・習慣といった異文化交流に関する内容が多く挙げられた一方で、趣味（音楽、スポーツなど）や好きな芸能人のことなど「日本人の友

達と話す内容は変わらない」という意見も多く見られた。

③留学生の研究活動や大学生活での日本語使用状況

留学生の日本語使用状況について日本人学生から客観的に見た様子について (図13) は、図書館、売店、保健センターなどの日本語使用については53.9%から70.4%の割合で「わからない」と答えているものの、留学生回答と同じく、研究や実験について他の学生と話したり雑談をしたりする場面で日本語を「よく使っている」という回答が60%台の高い割合で得られた。その他、大学外の日常生活で留学生が日本語をよく使っている場面や場所は、「日本人と話する際は基本的にすべて日本語」とする回答が多く、「日本語を使おうと努力している」、「留学生同士の間話でも日本語と英語が混じっている」と積極的に日本語を使っている留学生の様子が見て取れる。

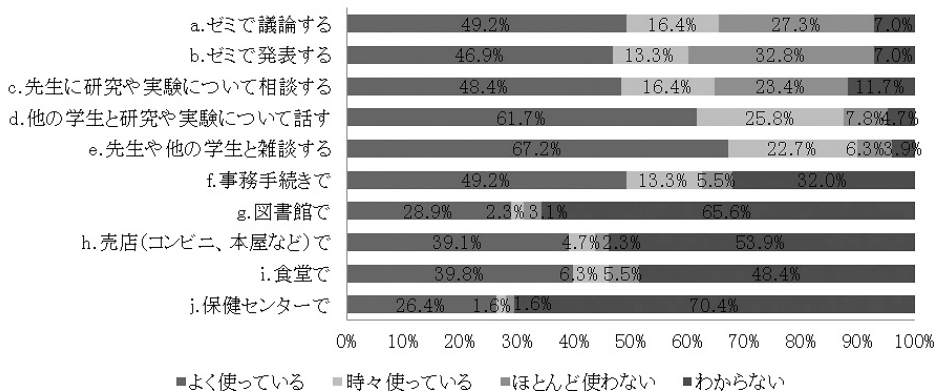


図13：研究活動・大学生活における日本語使用場面 (日本人学生回答)

④留学生とのコミュニケーションについての満足度

「a.きちんと意思の疎通ができて満足」と「c.きちんと意思の疎通ができないこともあるが、特に不満は感じていない」が合わせて80.7%で、概ね満足していると言える (図14)。留学生について日頃感じていることについての自由記述では、「意思の疎通ができないことは不満ではないが惜しく感じる」、「自国の文化についてもっといろいろ聞いてみたい」など、留学生との交流を積極的に求める意見が多く見られた。日本人の英語力の問題を挙げる意見も多く、「留学生の人は英語でゼミ発表を行うので、日本人の英語のスキルアップが必要」といった意見もあった。全体的には、「積極的に日本語のコミュニケーションの仕方を学ぼうとしていて偉い

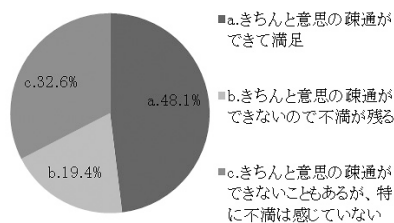


図14：留学生とのコミュニケーションについてどう感じるか

と思う」と好意的な意見が多かった。一方で、「日本人に聞かれて都合の悪いときだけ母国語で話すときがあり不快感を伝えたことがある」、「同国人で集まればかりいるので英語も日本語も上達せずもったいなく思う」と否定的な意見も挙げられた。少数ではあるが、「事務書類で日本語必須のものが多すぎる」と、留学生を受け入れる体制上の問題を指摘する意見も見られた。

2.4 アンケート調査のまとめ

以上の結果、理工系大学院留学生は研究活動や大学生活において、相手や話題によって英語と日本語を使い分けている傾向がわかった。大学外の日常生活では、日本語使用が求められる場面が大幅に増えることもわかった。

日本の理工系大学院では英語のみで学位が取得できるコースの拡充が進められているが、これらの結果から、研究活動自体は英語のみで行えたとしても、研究室のメンバーと交流を深めたり日本人学生とよりよい関係を作ったりする上では日本語を使ったほうが望ましく、また、大学以外の日常生活では否応なく日本語使用が求められる実状があると言える。研究室内で留学生が積極的に日本語を使用しているのは、日本文化を理解しようと努め、日本人学生とより深く交流しようとしている留学生の好意的な姿勢によるものとも言えるが、日本語で記載しなければならない申請書が多すぎるといった大学の受け入れ態勢や、日本人学生の英語力が英語のみのコースに十分に適応しきれていないといった問題も、留学生が日本語を使用せざるを得ない状況の一因であると言える。

3. グループプロフィール「理工系大学院留学生のための日本語」

2のアンケート結果をもとに、理工系大学院留学生のグループプロフィールを作成した（資料1）。グループプロフィールとは、特定の集団に必要な言語使用場面や言語活動をまとめたものである。

3.1 作成手順

グループプロフィール作成にあたって、まず、シナリオ（言語使用場面）を作成した。アンケート結果から、理工系大学院留学生がどのような場面で日本語を使用しているのかを抽出し、「ゼミに参加する」「指導教員と話す」などとした。

次に、各シナリオが社会においてどのような位置づけにあるのかを整理するため、シナリオに「領域」を付与した。領域はCEFRに基づき、「私的領域」「公的領域」「職業領域」「教育領域」の4分類とした。

- ・私的領域：楽しみのために読書をしたり、自分のために日記をつけたりするような、個人が行うことに関わる場合。
- ・公的領域：一般的な公的立場で、社会の一員として行動する場合。
- ・職業領域：職業や専門の仕事に携わる場合。
- ・教育領域：ある教育制度の中で組織だった教育を受ける場合。

(Council of Europe 2008 : 46)

資料1では、領域に基づき、シナリオを大きく【研究活動・大学生生活】と【日常生活】に分けて示している。教育領域のシナリオを【研究活動・大学生生活】に、公的領域、私的領域を【日常生活】とした。職業領域は、大学生生活と関わる就職活動を【研究活動・大学生生活】とし、アルバイトは【日常生活】とした。【研究活動・大学生生活】には、理工系大学院生の特徴となるようなシナリオが見られるが、【日常生活】のシナリオは、日本で生活する留学生に共通すると考えられるものも多い。

次に、各シナリオに必要な要素を想定し、記述した。要素とは、その場面において行われる実際の言語活動である。たとえば、「ゼミに参加する」というシナリオの場合、要素は、「発表を聞く」「議論する」などが想定される。

アンケートの回答で、具体的な場面や状況、言語表現などの詳細が書かれていた場合は、それを抽出し、「具体例」として記述した。また、日本人学生からの話題に関する回答の中からも引用した。回答の自由記述にあったもののみを記載したため、具体例はすべての言語活動には付与していない。なお、具体例はあくまでもその言語活動の一例であり、実際にはより多様な言語活動が行われていると思われる。

3.2 グループプロフィールの特徴

作成したグループプロフィールから、英語で研究活動を行っている留学生であっても、さまざまな場面で日本語を使用していることがわかった。

教育領域においては、ゼミでの発表や議論など、専門的な内容については英語を使用しつつも、飲み会などの研究室イベントや雑談などでは日本語を使用するなど、使用言語を使い分けられているケースが目立った。指導教員と話す際も、研究についての相談では英語を使用するが、挨拶や研究以外の会話では、日本語の使用を心がけている留学生が多いようである。また、学会への申し込みや実験用具の購入などで外部と公的に関わる場面では、日本語の使用が求められていることがわかる。

公的領域においては、シナリオの数が多く、かつ幅広いことがわかる。買い物や病院、旅行、趣味など、さまざまな場面で日本語が使用されている。中でも特に多かったのが、手続きに関

するシナリオである。公共料金等の手続きや、生活に必要な申し込み、契約などで日本語が必要とされる。これらの言語活動は、日常生活だけでなく、大学生活においても求められている。特に、書類に必要事項を記入するのが困難であると答えた留学生が目立った。

また、領域を問わず、交流を目的とした言語活動が全体的に多いことがわかった。研究室においても、大学外においても、交流を目的とした会話では積極的に日本語を使おうとしている様子が見られる。日常生活では、近所の人や地域、教会などとのつながりを作るための交流会話が行われている。大学院レベルでは家族と来日する留学生も少なくないが、子どもがいる場合は、子どもが通う保育園や学校とのつながりがあり、そこでも交流的な言語活動が行われている。

なお、今回のグループプロフィールは、国際交流基金（2009：114-115）に示されているドイツ語プロフィール（Profile deutsch）のグループプロフィール作成手順に基づいて作成したが、シナリオや要素にはレベルを付与していない。レベル付けをするには、そのシナリオにおいて、その言語活動がどの程度できる必要があるのかを明らかにする必要があり、さらなる調査が必要となるであろう。

4. おわりに

以上明らかになった理工系大学院留学生の日本語使用状況を基礎資料として、日本語オンライン教材の開発を進めていく。当教材は、『まるごと 日本のことばと文化』（入門 A 1 かつどう）（国際交流基金 2013）の目標 Can-do および主な表現を基本的なシラバスとするが、アンケート調査とグループファイルから得られた理工系大学院留学生に必要な場面や表現等を盛り込んだドラマスキットを撮り下ろし、教材のメインコンテンツとする予定である。この教材は、平成25年度中にオープンコンテンツとしてオンライン公開を開始する予定である。

〔参考文献〕

国際交流基金（2009）『JF 日本語教育スタンダード試行版』、国際交流基金

国際交流基金（2013）『まるごと 日本のことばと文化』（入門 A 1 かつどう）、三修社

日本学生支援機構「平成24年度外国人留学生在籍状況調査結果」

<http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data12.html> 2013年8月20日参照

Council of Europe（2008）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）、朝日出版社

Glaboniat, M., Müller, M., Rusch, P., Schmitz, H. & Wertenschlag, L. (2005) *Profile deutsch*. Berlin : Langenscheidt.

国際交流基金日本語教育紀要 第10号 (2014年)

資料1 グループプロフィール「理工系大学院留学生のための日本語」

【研究活動・大学生生活】

領域	シナリオ	要素	具体例
教育	ゼミに参加する	資料を読む 発表を聞く 議論する 発表資料を作成する 発表する	
		※このシナリオは英語で遂行している留学生が多い。「自分の発表は英語だが日本人学生の発表を聞くときは日本語」、「日本語で発表を聞くが資料は英語で読む」など、英語と日本語を両方使用している留学生も多い。	
教育	研究室のミーティングに参加する	資料を読む ディスカッションに参加する わからないことを質問する	
教育	研究室のイベント(飲み会・合宿等)に参加する	イベントの連絡を受ける 出欠の返事をする 指導教員や研究室メンバーと雑談をする	
教育	研究室メンバーとやりとりをする	挨拶する わからないことについて質問する	・授業内容や課題について不明な点を日本人学生に確認する ・申請書や申込用紙などの書類に記入したものが正しいかどうか、日本人学生にチェックしてもらう ・日本語の語彙や表現がわからないとき、日本人学生に尋ねる ・コンビニなどがどこにあるか、場所を尋ねる
		研究や実験について話す	・実験内容や進捗状況について報告し合う ・英語で説明して相手にわかってもらえなかったとき、日本語で説明する
		研究室内でメールのやりとりをする	・研究室のメーリングリストで回ってくるメールを読む
		研究以外の会話や雑談をする	・研究室メンバーと、趣味やニュースについて話す ・自国の文化や習慣について話す ・近くのおいしい店などについての情報を交換する
		※研究生活で主に英語を使用している留学生も、挨拶や日常会話、雑談などにおいては日本語を使うとする傾向が見られる。ただし、日本人学生があえて英語で話しかけてくる場合などは英語を使用する。※英語を使用したいが、日本人学生の英語能力が低いためやむを得ず日本語を使用するケースもある。※日本人学生とは日本語、留学生同士の会話は英語と使い分けている場合もある。	
教育	授業・講義に参加する	講義概要・シラバスを読む 履修登録をする 講義を聞く ディスカッションをする 講師と話す 講師とメールのやりとりをする 板書を読む クラスメートと話す	・講師が黒板に書いた文字を読む ・日本語のクラスで、ほかの留学生と雑談する
		※専門分野の講義や授業は英語で受けている人が多いが、多くの人が日本語の授業を履修しており、そこでは日本語の使用が必須とされる。指導教員とは英語で話す人も、日本語の講師とは日本語を使用する。	
教育	論文を書く	先行研究や参考文献を検索する 先行研究や参考文献を読む 論文を書く	
		※このシナリオは英語で遂行している場合がほとんどである。	
教育	指導教員と話す	面談のアポイントメントをとる 許可を求める 研究の進捗状況を報告する 研究について指導教員に相談する 指導教員から指導を受ける 研究以外の会話や雑談をする メールでやりとりをする	
		※指導教員とのやりとりでは主に英語を使用している場合が多いが、個人指導のアポイントをとったり、何かの許可を求める際、また、研究以外の会話をすることは日本語を使用することが多い。※一対一で話す場合は英語だが、日本人学生が同席している場合は日本語になるなど、状況によって使い分けることもある。	
教育	実験する	マニュアルを読む わからないことを質問する 共同作業をする	・実験装置や機械の使い方などについてのマニュアルを読む ・実験装置や機械の使い方などについて、わからないことを研究室メンバーに質問する ・実験室で日本人学生と話し合いながら実験を進める
教育	サークル活動等に参加する	ミーティングに参加する 日本人学生と雑談をする	・日本人同士が話していることを理解し、会話に参加する
教育	TA・チューターをする	指導する	・TAとして学部生に指導する

理工系大学院留学生の日本語使用に関する一調査

教育	交流イベントに参加する	日本人学生や留学生と会話をする	・毎週開かれている会話サロンに参加し、日本人学生や留学生とお茶を飲みながら交流する
		自分の国を紹介するプレゼンテーションをする	
教育	事務局とやりとりをする	わからないことを質問する	
		事務スタッフとメールのやりとりをする	・事務局から来たメールを読んで、返事を書く
教育	図書館を利用する	探している本について質問する	
教育	学生寮で生活する	貸し出しの手続きをする	
教育 公的	実験用具や材料、薬品等を購入する	日本人学生や留学生と話す	
		掲示板のお知らせ等を読む	
教育 公的	フィールドワークをする	担当者に購入許可を求める	・所属している部署の担当者に、研究室の備品などを購入する許可を求める
		業者に発注する	・実験に必要な薬品や材料を業者に発注する
教育 公的	フィールドワークをする	フィールドに参加する	・調査をしているフィールドの会合に出席する
		観察する	
教育 公的	学会・研究会等に参加する	アンケートを作成する	
		アンケートを依頼する	
教育 公的	学会・研究会等に参加する	インタビューする	
		資料やデータを集める	・市役所や政府、会社等から資料を提供してもらう
教育 公的	学会・研究会等に参加する	書類に必要事項を記入する	・調査倫理についての用紙に必要事項を記入する
		インターネットなどで情報を得る	
教育 公的	奨学金を申請する	参加の申し込みをする	
		研究発表をする	
教育 公的	奨学金を申請する	発表資料を作成する	
		聴衆からの質問に答える	
教育 公的	奨学金を申請する	懇親会などで雑談をする	
		奨学金についての情報を得る	
職業	就職活動をする	奨学金を申請する	・申請書に必要事項を記入する
		インターネットなどから情報を収集する	
職業	就職活動をする	エントリーシートに記入する	
		面接を受ける	

【日常生活】

領域	シナリオ	要素	具体例
公的	飲食店を利用する	メニューを読む	
		店員に質問する	・宗教的に食べられないものがある場合、それが入っているかどうかを店員に質問する
		店員の質問に答える	・ファストフード店などで、「こちらでお召し上がりですか」などの店員の質問を理解し、応答する
公的	買い物をする	料理や飲み物を注文する	
		会計する	・外食をしたとき、「お会計お願いします」など精算の依頼をする
		店員に探しているものがどこにあるか尋ねる	・コンビニなどで、探しているものを説明し、扱っているかどうか、どこに置いてあるかを尋ねる
公的	買い物をする	商品についての情報を読む	・スーパーなどで、パッケージに記載してある原材料を読んで、何が使われているかを理解する
		買いたい物についての希望を話す	・薬局で自分の症状を説明し、必要な薬を買う ・パソコンなどを購入するとき、予算や機能などの希望を店員に説明する
		試着する	・デパートや衣料品店などで、試着したいことを店員に伝える
公的	ネットショッピングをする	店員の質問に答える	・コンビニで、お箸やレジ袋が不要だということを伝える
		会計する／支払う	・コンビニで、「温めますか」などの店員の質問に答える
		修理の依頼をする	・「いくらですか」などと商品の値段を尋ねる ・パソコンなどが壊れたとき、状況を説明し、修理を依頼する
公的	交通機関(電車、バス、タクシー等)を利用する	インターネットから情報を探す	
		必要事項を入力する	
公的	交通機関(電車、バス、タクシー等)を利用する	駅員に質問する	・目的地への所要時間や運賃、出発時間などを駅員に質問する
		行き方を尋ねる	・間違った電車に乗ってしまったとき、戻る方法や目的地への行き方を駅員に尋ねる
公的	大家、管理人、近所の人等と話す	挨拶をする	
		近況を話す	・毎日、マンションの管理室の人に挨拶をする
公的	銀行を利用する	問題が起きたときに相談する	
		口座を開設する	・用紙に必要事項を記入する
公的	銀行を利用する	問題に対処する	・キャッシュカードを失くしたとき、銀行に行って状況を説明し対応してもらう ・国の親から送金があったときなどに銀行からかかってくる本人確認の電話に応答する
		送金・振込みをする	・用紙に必要事項を記入する
公的	郵便局を利用する	荷物を送る	
		荷物を受け取る	
公的	郵便局を利用する	送金・振込みをする	
		送金・振込みをする	

国際交流基金日本語教育紀要 第10号 (2014年)

公的	住居を探す	探している物件について希望を話す 物件を見せてもらう 契約をする	・予算や希望する条件などについて説明し、交渉する ・契約書類に記入する
公的	携帯電話の手続きをする	契約をする	・契約書類に記入する
公的	ガス、水道、電気等の手続きをする	供給の手続きをする 契約をする	・アパートに入居したとき、水道会社などに電話をして使えるようにしてもらう ・契約書類に記入する
公的	病院を利用する	受付をする 病状を説明する 医師の指示を聞く 薬をもらう	・受付の指示を聞き、問診表に記入する ・体調が悪くて病院に行ったとき、医師に自分の症状について説明する ・健康診断の問診で自分の体調について話す ・医師の診断や指示を聞いて理解する
公的	市役所・区役所で手続きをする	住民登録などの手続きをする	・用紙に必要事項を記入する
公的	旅行する	旅行会社に行って相談する チケットやホテルを予約する 旅行先でホテルに泊まる 旅行先でその土地の人と交流する 旅行先で道を尋ねる 友だちを案内する 表示や案内を読む	・旅行先で、現地の人に話しかける ・国から友だちが遊びに来たとき、観光地などを案内する ・道にある表示や案内を読む ・観光スポットの紹介を読む
公的	道を尋ねる	道を尋ねる	・道に迷ったときや行き方がわからないときに、近くの人に行き方を尋ねる
公的	ホームステイをする	ホストファミリーと話す	
公的	飲み会、祭りなどのイベントに参加する	参加する意志を表明する／約束する 自己紹介をする 雑談をする 新しい友だちを作る	・自己紹介をしたり、自分について話す ・日本人同士の会話に参加する ・理解できないとき、「もう一度お願いします」などの表現を使って言い直してもらう ・「すみません、日本語はちょっと…」などの表現を使って、日本語がわからないことを表明する
公的	交流する	フェイスブックでやりとりをする メールでやりとりをする 雑談をする	
公的	公園に行く	公園で会った人にあいさつをする 雑談をする 情報交換をする	・「暑いですね」「いい天気ですね」などのちょっとした会話をする
公的	教会の礼拝に参加する	牧師の説教を聞く 教会で会った人と話す	
公的	子どもの学校、保育園、幼稚園でやりとりをする	子どもの先生と話す 子どもの友だちの親と話す 連絡帳を読む／返事を書く 通知や書類を読む 書類に記入する	
公的	レストラン、美容院等の予約をする	店についての情報を調べる 電話で予約をする	
公的	美容院／理容院を利用する	希望を話す 美容師／理容師と雑談をする	
公的	電話をする	問い合わせをする 電話を受ける	・困っていることや問題について状況を説明する ・間違い電話がかかってきたときに、間違いであることを伝える
公的	スポーツジム	わからないことを質問する 運動器具の使い方の説明を聞く ジムで会った人と雑談をする	
公的	習い事	先生の説明を聞く 先生と話す わからないことを質問する 仲間と話す	
公的	助けを求める	助けを求める	・困ったときや問題が生じたときに、近くの人に助けを求める ・英語が話せるかどうかを尋ね、英語での説明を求める ・手続きや契約などで詳細な説明が必要なとき、「どなたか英語が話せる方はいませんか」などと英語での説明を求める
職業	アルバイトをする	アルバイトを探す(情報を収集する) 履歴書を書く 応募する 面接をする 上司や同僚と話す 仕事についての説明を聞く 客と話す	・面接官の質問を理解し、応答する ・アルバイト先で、上司に仕事上の相談をする
私的	子どもとやりとりをする	子どもと日本語で会話する	・日本の保育園に通っている息子と、母語と日本語を混ぜて会話をする
私的	テレビを見る	テレビを視聴する	